

目次	
小川悦勇よりの挨拶とその略歴	P 1
第1番(初入選)	P 2
第2番(習作—1)	P 3
第3番(習作—2)	P 4
第4番(習作—3)	P 5
第5番(習作—4)	P 6
第6番(簡素形)	P 8
第7番(ペテンシ)	P10
第8番(「1」—1)	P12
第9番(周辺巡り)	P13
第10番(伏線入市松)	P16
第11番(市松、詰上小駒対象)	P20
第12番(市松、入玉形)	P22
第13番(市松、双方不成)	P24
第14番(市松、軽3筋)	P26
第15番(軽、銀趣向)	P28
第16番(風車—I)	P31
第17番(風車—II)	P35
第18番(ピンポン球)	P38
第19番(ダイヤ、市松)	P41
第20番(「二」の字)	P43
第21番(「イ」の字)	P45
第22番(綾取り)	P47
第23番(迷路、伏線作)	P48
第24番(小駒図式)	P54
第25番(めいと—1)	P55
第26番(めいと—2)	P56
第27番(詰上がり「1」—2)	P59
第28番(詰研会報)	P62
第29番(マクドナルド)	P64
第30番(「への字」—1)	P67
Aさんの「人生双六」 1	P45
Aさんの「人生双六」 2	P46
Aさんの「人生双六」 3	P48
Aさんの「人生双六」 4	P53

Aさんの「人生双六」 5	P56
Aさんの「人生双六」 6	P58
Aさんの「人生双六」 7	P62
Aさんの「人生双六」 8	P64
Aさんの「人生双六」 9	P67
Aさんの「人生双六」 10	P68

後編—①は第30番で、終わりです。

なんで途中下車の腰砕けになったのか、その原因は判りませんが、「雨滴」の後編＝解説編の編集は第25番辺りまでは、平成22年の夏には終わっていましたが、それから先は1題も進まず、約2年も経ったのいうのに、未だに完了していません。このことに付いては、まあ、ヨタヨタ爺さん(A, B)2人のやっている事ですから、大目に見てください。

平成24年3月、谷口均さんからメールを戴きました。「雨滴後編は出来ていますか？」

A爺、「ドキッ」

その後、「冬眠日記」でも取り上げられて。

B爺、「ごめん、ごめん、ごめん」

B爺さんはこのところ「駅ちかウォーキング」なるものに凝っていて、暇さえあれば(いいえ、毎日が日曜日)、デジカメ片手にブラブラと歩いている。

それでもA爺がB爺さんに、「そろそろやろうよ。」と声を掛けたら、「5月から後編—②に取り掛かります。」との返事あり。

完成後には又「冬眠日記」でお世話になります。

その節は宜しく願いいたします。

平成24年4月 小川悦勇

長い間、「雨滴」後編の編集を捨て置いて申し訳ありません。前編を読んで後編を期待してくださった皆様へ深く陳謝します。

全編完了までは、もう暫くお待ちください

平成24年5月 今川健一